

明治二十三年七月改正

現行
改正
條例規則全書續編

京都
飯田信文堂藏版

030914-000-2

CZ-5-0131

現行改正條例規則全書

明治二十三年七月改正

飯田信文堂

M23

BBC-0234



№6088/23



朕酒造稅則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月八日

内閣總理大臣 伯爵山縣有朋

大藏大臣 伯爵松方正義

法律第四十九號

明治十三年九月第四十號布告酒造稅則中左ノ通改正シ明治二十三年十月一日施行ス

第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

左ニ掲クル事項ノ一ニ當ル者ハ納稅保證ノ爲管廳ニ於テ相當ト認ムル所ノ保證物ヲ差出スカ若ハ資産ヲ有スル保證人ヲ立ツルニアラザレハ前項ノ免許ヲ與ヘサルヘシ

一 第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條ノ處罰ヲ受ケ滿三年ヲ經過セサル者

二 酒類造石稅ノ滯納處分ヲ受ケ滿三年ヲ經過セサル者

三 所有不動産ノ價額造石稅四分ノ一ニ滿タサル者



保證物ノ種類及保證人ニ要スル條件ハ大藏大臣之ヲ定ム

第九條 造石税ハ左ノ四期ニ納ムヘシ

第一期 四月十五日限

十月一日ヨリ一月三十一日迄検査済石數ニ係ル税額ノ半數

第二期 八月十五日限

二月一日ヨリ五月三十一日迄検査済石數ニ係ル税額ノ半數

第三期 十一月十五日限

六月一日ヨリ九月三十日迄検査済石數ニ係ル税額ノ全數並ニ第一期第二期ニ係ル殘

納額ノ半數

第四期 一月十五日限

前納額ノ殘數

第十一條 營業免許後不動産ヲ賣渡讓渡及抵當トシ其現在スル價額造石税四分ノ一ニ滿

タル場合ニ於テハ第一條第二項ニ依リ更ニ保證物ヲ差出スカ若ハ保證人ヲ立テシム

ベシ

前項ノ保證物ヲ差出サス若ハ保證人ヲ立サルトキハ第九條ノ納期ニ拘ハラヌ検査済酒類ニ係ル造石税ヲ納メシムヘシ

第十六條 検査済酒類納税以前ニ於テ腐敗シ若ハ天災其他避クヘカヲサル事故ニ依リ廢

棄ニ屬シタルトキハ直ニ管廳ニ申出テ検査ヲ受ケ其造石税ノ免除ヲ請フコトヲ得

第十七條 前條検査ノ上再ヒ酒類ニ製成スル者ハ其石數ニ應シ造石税ヲ納ムヘシ

第二十條第三項ヲ削除ス

朕集會及政社法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月二十五日

内閣總理大臣 伯爵山縣有朋

内務大臣 伯爵西郷從道

法律第五十三號

集會及政社法

四

第一條 此ノ法律ニ於テ政談集會ト稱フルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲公衆ヲ會同スルモノヲ謂フ政社ト稱フルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス政治ニ關ル事項ヲ目的トシテ團體ヲ組成スルモノヲ謂フ

第二條 政談集會ニハ發起人ヲ定ムヘシ

政談集會ヲ開クトキハ發起人ヨリ開會四十八時以前ニ會場所在地ノ管轄警察官署ニ届出ヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ警察官署ハ直ニ其ノ領收證ヲ交付スヘシ

届書ニハ集會ノ場所年月日時並ニ發起人及講談論議者ノ氏名住所年齢ヲ記載シ發起人署名捺印スヘシ

届書ニ記載シタル時刻ヨリ三時間ヲ過キテ開會セサルトキハ届出ノ効ヲ失フモノトス

第三條 日本臣民ニシテ公權ヲ有スル成年ノ男子ニアラザレバ政談集會ノ發起人タルコトヲ得ス

第四條 現役及召集中ニ係ル豫備後備ノ陸海軍軍人警察官官立公立私立學校ノ教員學生生徒未成年者及女子ハ政談集會ニ會同スルコトヲ得ス

法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員選舉準備ノ爲ニ開クト所ノ集會ハ投票ノ日ヨリ前三十日間ハ選舉權ヲ行フヘキ者及被選舉權ヲ有スル者ニ限り本條ノ制限ニ依ルヲ要セス

第五條 政談集會ニ於テハ外國人ヲシテ講談論議者ヲラシムルコトヲ得ス

第六條 政談集會ハ屋外ニ於テ開クコトヲ得ス

第七條 凡ソ屋外ニ於テ公衆ヲ會同シ又ハ多衆運動セントスルトキハ發起人ヨリ四十八時以前ニ會同スヘキ場所年月日時及其ノ通過スヘキ線路ヲ管轄警察官署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ但シ祭葬講社學生生徒ノ體育運動及其ノ他慣例ノ許ス所ニ係ルモノハ此ヘ限ニアラス

警察官署ハ前項ノ届出ニ於テ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ認可ヲ拒ムコトヲ得警察官署ハ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ何等ノ場合ニ拘ラス屋外ノ集會又ハ多衆運動ヲ禁止スルコトヲ得

五

第八條 帝國議會開會ヨリ閉會ニ至ルノ間ハ議院ヲ距ル三里以内ニ於テ屋外ノ集會又ハ多衆運動ヲナスコトヲ得ス但シ第七條第一項但書ノ場合ハ本條ニ於テモ之ヲ適用ス

第九條 警察官署ハ制服ヲ着シタル警察官ヲ派遣シ政談集會ニ臨監セシムルコトヲ得發起人ハ臨監警察官ニ其ノ求ムル所ノ席ヲ供スヘク集會ニ關スル事項ニ付尋問アルトキ何事タリトモ之ニ開答スヘシ

政談集會ニアラサルモ安寧秩序ヲ妨害スルノ虞アリト認ムル集會ニハ第一項ノ臨監ヲ爲スコトヲ得

第十條 凡ソ集會ニハ戎器又ハ兇器ヲ携帯シテ會同スルコトヲ得ス但シ制規ニ依リ戎器ヲ携帯スル者ハ此ノ限ニアラス

第十一條 凡ソ集會ニ於テ罪犯ヲ曲庇シ又ハ刑律ニ觸レタル者若ハ刑事裁判中ノ者ヲ救護シ又ハ賞恤シ又ハ犯罪ヲ激唆スルノ談論ヲナスコトヲ得ス

第十二條 會場ニ於テ故ヲ直擾ヲ爲シ又ハ狂暴ニ渉ル者アルトキハ警察官ハ之ヲ制止シ其ノ命ニ從ハサルトキハ會場外ニ退出セシムルコトヲ得

第十三條 警察官ハ左ノ場合ニ於テ集會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

- 一 集會ノ成立此ノ條例ニ背キタルトキ
 - 二 第十一條ヲ犯シタルトキ又ハ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキ
- 此ノ場合ニ於テハ全會ヲ解散セシテ單ニ其ノ一人ノ講談論議ヲ停止スルコトヲ得

三 警察官ノ臨監ヲ拒ミ又ハ其ノ求ムル所ノ席ヲ供セス又ハ其ノ尋問ニ答ヘサルトキ

四 會衆騷擾ニ涉リ警察官之ヲ制止スルモ鎮靜セサルトキ

五 第四條第十條ノ違反者多數ニシテ警察官ヨリ退場ヲ命スルモ其ノ命ニ從ハサルトキ

第十四條 第二條ノ届出ヲ爲サスシテ政談集會ヲ開キタルトキハ發起人ヲ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ會場ヲ貸與シタル者亦同シ

人ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條ヲ犯シタル發起人ハ前項ニ同シ

政談集會ニ會同スルコトヲ得サル者ヲ勸誘シテ會同セシメタル發起人ハ本條第一項ノ

例ニ照シテ一等ヲ加フ

第十七條 第六條ヲ犯シタル發起人及講談論議者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五

圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 第七條ニ背キタルトキハ發起人及教唆人ヲ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第八條ニ背キタルトキハ發起人及教唆人ヲ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ

十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第十條ヲ犯シタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス其ノ之ヲ制止セサ

ル發起人亦同シ

第二十一條 第十一條ヲ犯シタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓

以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 警察官ヨリ解散ヲ命セラレタル後仍退散セサル者又ハ退出ヲ命セラレタル

後仍退出セサル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處

ス

第二十三條 政社ニハ役員ヲ置クヘシ

政社ハ組成後三日以内ニ其ノ役員ヨリ社名社則事務所役員及社員名簿ヲ其ノ事務所所

在地ノ管轄警察官署ニ届出ヘシ其ノ届出ノ事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

前項ノ届出アリタルトキハ警察官署ハ直ニ其ノ領收證ヲ交付スヘシ

役員ハ其ノ政社ニ關ル事項ニ付警察官ヨリ尋問アルトキ何事タリトモ之ニ開答スヘシ

第二十四條 政社ニシテ政談集會ヲ開クトキハ第二條ノ手續ヲ爲スヘシ但シ講談論議者

及會場ヲ豫定シテ定期ニ集會スルモノハ之ヲ初會ノ開會四十八時以前ニ届出ルトキハ

爾後ノ例會ハ届出ヲ要セス其ノ届出ノ事項ヲ變更アリタルトキハ仍第二條ノ手續ニ依

テ

第二十五條 現役及召集中ニ係ル豫備後備ノ陸海軍軍人警察官官立公立私立學校ノ教員

學生生徒未成年者女子及公權ヲ有セザル男子ハ政社ニ加入スルコトヲ得ス

第二十六條 政社ニ於テハ外國人ヲシテ加入セシムルコトヲ得ス

第二十七條 政社ハ標章及旗幟ヲ用ヰルコトヲ得ス

第二十八條 政社ハ委員若ハ文書ヲ發シテ公衆ヲ誘導シ又ハ支社ヲ置キ若ハ他ノ政社ト連結通信スルコトヲ得ス

第二十九條 政社ニ於テハ法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員ニ對シテ其ノ發言及表決ニ付議會外ニ於テ責任ヲ負ハシムルノ制規ヲ設クルコトヲ得ス

第三十條 凡ソ結社ニシテ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ内務大臣ハ之ヲ禁止スルコトヲ得若シ禁止ノ命ニ從ハスシテ仍結社スルノ實アル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 第二十三條ニ背キ政社ノ届出ヲ爲サ、ルトキ又ハ警察官ノ尋問ニ答ヘサルトキハ其ノ役員ヲ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキ又ハ尋問ヲ受ケテ詐僞ノ答ヲ爲ストキ

ハ前項ノ例ニ照シテ一等ヲ加フ

第三十二條 第二十五條ニ背キ入社シタル者及入社セシメタル役員ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條ヲ犯シタル役員ハ前項ニ同シ

第三十三條 第二十七條ニ背キ標章旗幟ヲ用ヰタル者及其ノ政社ノ役員ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 第二十八條ヲ犯シタルトキハ其ノ役員及委員ヲ一月以上一年以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條 集會ノ發起人又ハ結社ノ役員タルノ實アル者ハ一人又ハ數人又ハ何等ノ名義ヲ以テスルコトヲ總テ發起人又ハ役員ノ責ニ任ス

第三十六條 此ノ法律ヲ犯シタル者ハ數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第三十七條 此ノ法律ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ六月トス

第三十八條 法律命令ニ定ムル所ノ集會ハ此ノ法律ニ依ルノ限ニアラス

朕土地收用協議會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月二十五日

内閣總理大臣 伯爵山縣有朋

内務大臣 伯爵西郷從道

法律第五十四號

土地收用協議會規則

第一條 土地收用法ニ依リ工事ノ認定ヲ得タル起業者ハ同法第八條第一項ニ基キ其工事ノ仕様及收用スヘキ土地ノ補償金額ニ付協議ヲ遂クル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ同項ノ書類ヲ添ヘ地方長官ニ申立テ官吏ノ出張ヲ請ヒ協議會ヲ開クコトヲ得但官ノ起業ニ係ルトキハ主務長官ヨリ其書類ヲ地方長官ニ送付シ官吏ノ出張ヲ求ムルコトヲ得

第二條 第一條ニ依リ地方長官ヨリ出張ヲ命セラルタル官吏ハ日時及場所ヲ示シ起業者官ノ起業ニ係ルトキハ其主任官吏及所有者並關係人ヲ呼出シ協議會ヲ開クヘシ但少クトモ開會十日日前

條ノ書類ヲ市町村長ニ送付シ之ヲ所有者及關係人ニ示サシムヘシ

協議會ニ於テハ先ツ工事ノ仕様ヲ協議シ補償金額ニ及フモノトス但補償金額ニ關シテハ先ツ鑑定人ノ意見ヲ聞クヘシ

鑑定人ハ三名以下トシ府縣參事會ノ意見ヲ聞キ地方長官之ヲ命ス但府縣制ヲ實施セサル地方ニ於テハ府縣常置委員ノ意見ヲ聞クモノトス

正當ノ理由ナクシテ協議會ニ出席セス又代人ヲモ差出サハル者アルトキハ工事ノ仕様及補償金額ニ異議ナキモノト見做スヘシ

第三條 出張官吏ハ其協議會ヲ統率シ協議ノ終結シタルモノハ之ヲ筆記セシメテ起業者及所有者並關係人ニ讀聞セ起業者及所有者並關係人ト共ニ署名捺印スヘシ

起業者所有者又ハ關係人ニ於テ筆記ノ謄本ヲ請求スルトキハ之ヲ交付スヘシ

第四條 協議會ニ於テ協議ノ終結セサル事件アルトキハ出張官吏ハ起業者及所有者並關係人ノ申立及鑑定人ノ意見ニ自己ノ意見ヲ付シ土地收用審査委員會ノ裁決ヲ求ムル爲メ土地收用法第八條第二項ノ手續ヲナスヘシ

第五條 出張官吏及鑑定人ノ旅費日當並協議會ノ費用ハ總テ起業者ノ負擔トス

爲替手形約束手形條例

第一章 爲換手形

第一節 爲替手形ノ性質及ヒ法式

第一條 爲替手形ハ振出人ヨリ支拂人ニ當テ記載ノ金額ヲ受取人又ハ其所有權ヲ受タル人ニ拂渡サシムル證券ヲ謂フ

第二條 爲替手形ニハ左ノ件々ヲ記載シ振出人記名調印スベシ

- 一 金額
- 二 振出人ノ年月日及ヒ場所
- 三 支拂ノ期限及ヒ場所
- 四 支拂人ノ氏名
- 五 受取人ノ氏名

六 受取人又ハ其所有權ヲ受ケタル人ニ支拂フヘキ旨

明治十六年爲替手形ノ書式左ノ如シ

大藏省告第八號告示 爲替手形約束手形書式

第一號 爲替手形書式(條例第二條)

堅四寸八分

番號	仕拂人	受取人	日附	期限

金、〃、〃、圓

番號 爲替手形

右金額 御來月何日 何某又ハ同人

指圖人ハ此手形引換ニ御仕拂可被下候也

何府何町何番地 何某 印

何府何町何番地 何某 殿

支拂人氏名

年月日

第三條 爲替手形ハ一ノ爲替ニ付キ同文ノ手形ニ通又ハ三通ヲ振出ス事ヲ得此場合ニ於テハ各通ニ番號ヲ附シ内一通ニ對シ支拂ヲ爲シタル時ハ他ノ各通ハ無効タルベキ事ヲ記載スベシ

明治十六年大藏省告第八號告示

第二號 同(條例第三條)

番號	爲替手形	組之一
印紙		
一金、 右金額來何月何日何某殿又ハ同人指圖人ハ此手形引換ニ御仕拂可被成候也		
但此手形御仕拂之上ハ		組之二 組之三
ハ無効タルベキ事		
何府何町何番地		

年月日	何某 印
何府何町何番地	
何某 殿	

此手形若シ組ノ二ナル片ハ但書ニ組之一二三云々ト記シ組ノ三ナル片ハ但書ニ組之二二三云々ト記スベシ

第四條 爲替手形ノ金額ハ五圓以上ニ限ル者トス

第二節 支拂期限

第五條 爲替手形ノ支拂規限ハ左ノ如ク區別ス

- 一 一覽拂
- 二 定期拂
- 三 一覽後定期拂

第六條 一覽拂ノ手形ハ其呈示ヲ受ケタル時直ニ支拂フ可キ者トス

第七條 定期拂ノ手形ハ手形ニ定メタル期日ニ支拂フ可キ者トス

第八條 一覽後定期拂ノ手形ハ一覽濟ノ日ヨリ其日數ヲ起算シ手形ニ定メタル期日ニ支拂フ可キ者トス

第九條 一覽拂ノ手形及ヒ一覽後定期拂ノ手形ハ振出ノ日附ヨリ三ヶ月以内ニ之ヲ呈示スベシ

第十條 定期拂ノ期限ハ振出ノ日附ヨリ一覽後定期拂ノ期限ハ一覽濟ノ日ヨリ六ヶ月以内ト爲ス

第三節 爲替資金

第十一條 振出人ハ支拂人ニ對シ爲替資金ヲ交附スルノ義務アル者トス

第十二條 振出人ヨリ支拂人ニ對シ貸方計算アル時ハ之ヲ以テ爲替資金ニ供用スルヲ得

第四節 裏書

第十三條 爲替手形ハ裏書ヲ以テ其所有權ヲ移轉スルヲ得

第十四條 裏書ニハ買受人又ハ讓受人ノ氏名及ヒ年月日ヲ記載シ賣渡人又ハ讓渡人氏名

住所ヲ記シ調印ス可シ

明治十六年大藏省告第八號告示

第三號 裏書ノ書式(條例第十四條)

裏	買受人又ハ讓渡人ノ氏名
表面之金額	何某殿又ハ同人指圖人ハ
御仕拂可被成候也	
府	何町何番地
縣	何村何番地
年	何 某 印
月	
日	
面	賣渡人又ハ讓渡人氏名

第十五條 裏書人ハ振出人及ヒ自己以前ノ裏書人ト共ニ自己以後ノ裏書人及ヒ手形所持人ニ對シ相連帶シテ償還ノ責任ヲ負フ者トス

第十六條 手形ノ裏面ニ餘白ナキ時ハ補箋ヲ爲シ裏書ヲ爲スヲ得

明治十六年大藏省告第八號告示

第四號 裏書補箋ノ様式(條例第十六條)

本紙

補箋

裏	裏書
裏書ノ書式ハ本紙ノ裏書ニ同シ	補箋ヲ付シタル者ノ實印
印	

第五節 保證

第十七條 振出人裏書人及ヒ支拂

人ハ他人ヲシテ手形ノ支拂ヲ保

證セシムルコトヲ得

保證人ハ其保證ノ旨ヲ手形又ハ

別紙ニ記載ス可シ

明治十六年

大藏省告第八號告示

第五號

別紙保證ノ書式

(條例第十七條)

番號	爲替手形
何錢印紙	
一金、〃、圓也	
右金額來何月何日何某殿又ハ同人指圖	
人ハ此手形引換ニ御仕拂可被成候也	
年月日	何府何町何番地
	何縣何村何番地
	何某殿
右ニ騰寫スル本手形ノ金額何某殿	保證ヲ受ル者ノ氏名
ニ於テ若シ仕拂無之節ハ拙者ニ於	
テ無相違仕拂可申候也	
年月日	何府何町何番地
	何縣何村何番地
	何某殿
	保證人ノ氏名
	何某印

保證ノ旨ヲ手形面ニ記載スルハ其保證ヲ受ル者ノ氏名ノ次ニ左ノ如ク記載スベシ

右何某保證人

何府何町何番地

何某印

第十八條 振出人裏書人ノ保證人ハ本人義務ヲ欠キタル場合ニ於テ本人ニ代リ他ノ義務ト相連帶シテ償還ノ責任ヲ負フ者トス

第十九條 保證人支拂ヲ爲シタル時ハ本人ニ代リ其權利ヲ有スル者トス

第六節 引受

第二十條 定期拂手形及ヒ一覽後定期拂手形ノ所持人ハ支拂人ニ其引受ヲ求ムルコトヲ得

第二十一條 支拂人手形ノ支拂ヲ引受ケタル時ハ其旨及ヒ年月日ヲ手形ニ記載シ記名調

印スベシ

明治十六年大藏省告第八號告示

第六號 引受ノ書式(條例第二十一條)

番號	爲換手形
印紙	
一金、 、 、 、 圓	
右金額來ル何月何日何某殿又ハ同人指圖人へ此手形引換ニ御支拂可被成候也	
年月日	何府何町何番地 何縣何村何番地 何某殿
年月日	何某印
支拂人氏名	

第二十二條 支拂人手形ノ支拂ヒテ引受ケタル時ハ振出人身代限ノ處分ヲ受ケタル場合

第二十九條 一ノ爲替ニ付キ手形敷通アル時ハ支拂人ハ其引受ヲ記載シタル手形ニ對シ支拂ヲ爲ス可シ

第三十條 支拂人期限ニ至リ手形ノ支拂ヲ爲サ、ル時ハ手形所持人ハ支拂ノ拒ミ證書ヲ受ク可シ

第三十一條 支拂ノ拒ミ證書ヲ受ケタル者ハ其旨ヲ電信書留郵便其他證據トナル可キ手續ヲ以テ振出人及ヒ各裏替人ニ通知スヘシ

第八節 拒ミ證書

第三十二條 支拂人手形ノ引受又ハ支拂ヲ拒ム時ハ手形ニ附箋ヲ爲シ其旨及ヒ年月日ヲ記載シ記名調印ス可シ之ヲ拒ミ證書ト爲ス

明治十六年

大藏省告第八號告示

第八號

拒ミ證書ノ書式(條例第三十二條)

<p>本手形ノ金額(此ニ拒却ノ事由ヲ記スヘシ) 捌 者ニ於テ {引受}ノ請求ニ應シ難ク候也 年 月 日 何 某 印 支拂人ノ氏名</p>
--

第三十三條 支拂人拒ミ證書ヲ作ルコトヲ肯セヌ又ハ其住所分明ナラス又ハ不在ニテ代理人ナキ時ハ所持人自ラ其始末ヲ記シ記名調印シテ郡區役所若クハ戸長役場ノ證印ヲ受ケ拒ミ證書ニ代用ス可シ

明治十六年

大藏省告第八號告示

第九號

條例第三十三條始末書(支拂人拒ミ證書ヲ作ルコトヲ肯セサル時ノ文例)

別紙爲替手形〔規定ノ期限内ニ於テ引〕ヲ請求セシニ支拂人何某ニ於テ之ヲ拒ミ且拒ミ證書ヲ作ルコトヲ肯セサルニ付條例第三十三條ニ據リ此ニ其始末ヲ自記致シ候也

年 月 日

何府何町何番地

何 某 印

前書ノ趣相違無之候也

手形所持人氏名

年 月 日

郡區役所若クハ戸長役場證印

第十號 同(支拂人住所分明ナラサル時ノ文例)

別紙爲替手形〔引受〕請求ノ爲メ本手形ニ指示シタル支拂人何某住所何府何町何番地ニ差越候處住所不明ニ付條例第三十三條ニ據リ此ニ其始末ヲ自記致シ候也

年 月 日

何府何町何番地

何 某 印

前書之趣相違無之候也

年 月 日

郡區役所若クハ戸長役場證印

第十一號 同(支拂人不在ナル時ノ文例)

別紙爲換手形〔引受〕請求ノ爲メ支拂人何某方ニ差越候處同人不在ニテ代理人無之ニ付條例第三十三條ニ據リ此ニ其始末ヲ自記致候也

年 月 日

何府何町何番地

何 某 印

前書之趣相違無之候也

年 月 日

郡區役所若クハ戸長役場證印

第三十四條 支拂人身代限ノ處分ヲ受ケタル場合ニ於テハ支拂期限前ト雖モ手形所持人

ハ拒ミ證書ヲ受クルヲ得

第九節 償還ノ要求

第三十五條 手形所持人支拂ノ拒ミ證書ヲ受ケタル時ハ其日附ヨリ十五日以内ニ振出人
裏書人ノ中一人若クハ數人ニ對シ爲替手形ノ金額期限後ノ利子及ヒ拒ミ證書并ニ通知
ノ費用ノ償還ヲ要求スルヲ得

手形所持人ハ手形支拂ノ拒ミ證書ヲ受ケタル時ハ直ニ第三十二條ノ明文ニ從ヒ手形振
出人及ヒ裏書人ニ通知シ其拒ミ證書ノ日附ヨリ十五日以内ニ手形振出人ノ中一人若ク
ハ総人員ヲ相手取り爲替手形ノ金額支拂期限後ノ利子及ヒ拒ミ證書并ニ通知ノ費用ヲ
モ計算シ右償還ヲ要求スルヲ得

第三十六條 第三十五條ノ要求ニ對シ償還ヲ爲シタル裏書人ハ其日ヨリ十五日以内ニ自
己以前ノ裏書人又ハ振出人ノ中一人若クハ數人ニ對シ自己ノ償還シタル金額及ヒ其利
子ヲ要求スルヲ得

第三十七條 振出人ハ爲替資金ヲ支拂人ニ交付シタルノ故ヲ以テ償還ノ要求ヲ拒ムヲ得

ス

第三十八條 要求ヲ受ケタル者ハ拒ミ證書ヲ附シタル爲替手形及ヒ證據ヲ添ヘタル計算
書ト引換ニ非レハ償還ヲ爲スニ及ハス

第三十九條 第九條ノ呈示期限第二十七條ノ支拂請求期限及ヒ第三十五條第三十六條ノ
要求期限ヲ怠リタル者ハ裏書人及ヒ爲替資金ヲ交付シタル振出人ニ對シ要求ノ權利ヲ
失フ者トス但引受ヲ爲シ若クハ爲替資金ヲ受ケタル支拂人又ハ資金ヲ交付セサル振出
人ニ對シ第九條第二十七條ノ期限ニ係ル者ハ振出ノ日附ヨリ起算シ第三十五條第三十
六條ノ期限ニ係ル者ハ拒ミ證書ノ日附ヨリ起算シテ三ヶ年間償還ヲ要求スルヲ得

第十節 紛失

第四十條 手形所持人手形ヲ紛失シタル時ハ直ニ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ其手形ノ流通
ヲ止ムル旨ヲ廣告シ又電信書留郵便其他證據トナルヘキ手續ヲ以テ支拂人ニ通知シ其
支拂ヲ止メシム可シ

第四十一條 手形紛失人ハ振出人ニ紛失ノ旨ヲ證シ代手形ヲ請受ケ各裏書人ヲシテ再ヒ

之ヲ裏書セシメ更ニ其手形ヲ流通スルコトヲ得
但振出人ハ手形紛失人ナシテ保證ヲ立テシムルコトヲ得

第四十二條 手形紛失人代手形ヲ受ケ得サル時ハ支拂期限ニ至リ支拂人ニ對シ真正ノ所
持人タル旨ヲ證明シ支拂ヲ請求スルコトヲ得但支拂人ハ手形紛失人ナシテ保證ヲ立テシ
ムルコトヲ得

第二章 約束手形

第四十三條 約束手形ハ振出人記載ノ金額ヲ受取人又ハ其所有權ヲ受ケタル人ニ自ラ支
拂フ可キ旨ヲ約束シタル證券ヲ謂フ

明治十六年大藏省告第八號告示

第十二號

約束手形書式(條例第四十三條)

寸方法爲替手形ニ同シ

金、 、 、 、 、 圓	番號	受取人	期限	日附
	約束手形			

右金額來何月何日貴殿又ハ貴殿ノ指圖人へ
此手形引換ニ無相違支拂可申候也

年 月 日

何府何町何番地
何縣何村何番地

何某 殿
振出人氏名 印

何某 殿
受取人氏名

第四十四條 約束手形ハ定期拂ニシテ金額ハ貳拾五圓以上ニ限ル者トス

第四十五條 爲替手形ニ付キ定メタル規則ハ第三節第六節其他約束手形ノ性質ニ反スル
條目ヲ除クノ外之ヲ約束手形ニ適用ス可シ

第三章 通則

第四十六條 第三十五條第三十六條ノ要求期限ハ路程ニ要スル日數八里毎ニ一日ノ猶豫
ヲ與フルモノトス

第三十五條第三十六條ノ要求期限及ヒ第九條呈示ノ期限外國ト關係スルモノハ其路程
ニ要スル相當日數ノ猶豫ヲ與フルモノトス

第四十七條 第一節第四節及ヒ第四十三條第四十四條ノ規程ニ合セサル手形ハ裏書ヲ以
テ所有權ヲ移轉スルコトヲ得ス

爲換手形約束手形條例終

明治廿三年九月十九日印刷
明治廿三年九月二十日出版

正價金七錢

著作兼發行者

京都府平民

飯田壽十郎

京都市寺町通り五條北入
西橋詰町第六十一番戶

印刷者

京都府平民

木村與三郎

京都市室町通姉小路上ル
圓福寺町第十二番戶

發兌元

京都市寺町通五條北入

飯田信文堂

20-99